

利尻島におけるセンダングサ属の記録

小杉和樹¹⁾・佐藤雅彦²⁾

¹⁾ 〒097-0401 北海道利尻郡利尻町杵形字富士見町 利尻島自然情報センター

²⁾ 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

Records of Genus *Bidens* from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Kazuki Kosugi¹⁾ and Masahiko Sarô²⁾

¹⁾Informative Center for Natural Environment of Rishiri, Fujimi-cho, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

²⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. *Bidens frondosa* was firstly recorded and *B. radiata* was recovered from Rishiri Island, northern Hokkaido.

利尻島におけるキク科センダングサ属は、館脇(1941)及び松野(1984)によりエゾノタウコギ *Bidens radiata* Thuill. var. *pinnatifida* (Turcz.) Kitam. が報告されているが、筆者らは2006年9月1日に利尻島南部の仙法志御崎海岸でアメリカセンダングサ *B. frondosa* L. を確認したので報告する。

アメリカセンダングサを確認したのは、御崎海岸の波打ち際から5mほど陸地側であった。溶岩流のくぼみに大きいものでは30cm以上の転石がつまった箇所、周辺にはかろうじてハマハコベやハマツメクサが生育する劣悪な環境であった(図1)。草丈60cmほどの大きな個体では、遠くからでも茎が紫がかり、利尻島の海岸域に分布する他種とは明らかに違って見え、頭花に総苞より長い苞葉と短い舌状花がある(図2)ことから本種と同定した。周辺には大小含めて8個体が確認され、すべてが開花もしくは開花直前で、結実しているものはなかった。

アメリカセンダングサは、北アメリカ原産で日本には大正時代に帰化し、現在では全国に分布している(大場ほか, 2003)。しかし、これまでに利尻島では記録されておらず、帰化植物による影響

について、五十嵐(2000)や佐藤ほか(2005)が利尻島の在来種植物への影響を危惧し、2001年より利尻島内の湿原ではオオハンゴンソウを防除(利尻島自然情報センター, 2006)していることなどから、新たな帰化である本種については、標本採集(RTMP439-RTMP443)及び写真撮影の後、周辺で確認された個体を全て引き抜いて駆除した。

アメリカセンダングサの分布拡大について大場ほか(2003)は、瘦果の逆刺で動物に付着して運ばれるとしているが、利尻島においては他に分布地がないことから、北海道本土の河川等から大雨時の流出物に混じった種子が大時化等により海岸に打ち上げられたのではないかと推測された。このようなことから、今後も同所や他の環境が類似した海岸域等の定期的な分布調査をするなどして、経過を観察する必要があると思われる。

なお、館脇(1941)と松野(1984)の文献には記載されているものの、筆者らが確認できていなかった前述のエゾノタウコギについては、2004年8月26日に疋田英子さん(稚内市)、宮本敬之助さん(知立市)、鈴木順子さん(板橋区)の3氏により、利尻島北部の鴛泊夕日ヶ丘展望台基部で再確



図1-3. 1. 利尻島仙法志御崎海岸で確認されたアメリカセンダングサ (全体). 2. 利尻島仙法志御崎海岸で確認されたアメリカセンダングサ (拡大). 3. 利尻島鴛泊ベシ岬基部で2004年に確認されたエゾノタウコギ (撮影: 疋田英子さん).

認められ、2個体が標本 (RTMP430, RTMP431) として利尻町立博物館に収蔵されていることを、あわせて報告する。この貴重な記録の提供について、この機会にあらためて3氏へお礼申し上げる。

疋田・鈴木の両氏に再確認時の状況について尋ねたところ、夕日ヶ丘展望台へ向かう途中で、周辺に背の高いイネ科草本やオオイタドリが生育する民家背後の一部にエゾノタウコギ (図3) が群生するのを偶然に発見したとのことである。生育地が湿った地面であること以外、生育規模等については正確に記録されなかった。また、これらのエゾノタウコギがもともと自生していたものかは不明であるが、民家付近であること、駐車場や工事に伴う土砂置き場等にも利用されるなど、人為的な要素が強い場所であることから、近年持ち込まれた可能性も考えられた。その後、アメリカセンダングサの確認に伴い、佐藤が2006年秋に同所を訪れたが、エゾノタウコギは確認できなかった。エゾノタウコギは多年草であり、2004年に記録された状況から個体群が維持できない状態ではないものと考えられ、前述したような工事用の土砂による埋没、または土砂撤去などの人為的な影響により絶滅したことも推測され、今後、同所付近での追跡調査が必要である。

参考文献

- 五十嵐 博, 2000. 利尻島産帰化植物目録1999. 利尻研究, (19); 93-96.
- 松野力蔵, 1984. 利尻島の植物目録と礼文島特産植物目録. 38 pp. 自刊.
- 大場秀章・門田裕一・清水建美・副島顕子・高橋秀男, 2003. キク科. 清水建美 (編), 日本の帰化植物: 197-235. 平凡社. 東京.
- 利尻島自然情報センター, 2006. 平成18年度利尻島オオハンゴンソウ分布等調査業務報告書. 利尻島自然情報センター. 40 pp.
- 佐藤雅彦・佐藤里恵・西島 徹・小杉和樹, 2005. 利尻島における帰化植物の記録 (1). 利尻研究, (24); 11-17.
- 館脇 操, 1941. 北見利尻島の植物. 札幌農林学会報, (34): 70-102.
- 梅沢 俊, 2001. 北海道 夏~秋の花. 絵とき検索表 III. エコネットワーク. 札幌. 72 pp.